

民見協だより

2022年
6月1日
No.69



入間市民生委員・児童委員協議会
入間市豊岡1丁目16番1号 入間市役所福祉総務課 TEL2964-1111

会長 白井 秀

主な内容

- ◆入間市民生委員・児童委員の表彰
- ◆民生委員・児童委員の一斉改選について

入間市民生委員・児童委員の表彰

「コロナ禍」に伴う緊急事態宣言等が発令され、民見協だよりも令和2年9月の68号を最後に中止となっていました。その間、国による表彰や県・市・社会福祉協議会による表彰の発表があり、長年勤められた民生委員・児童委員の皆さんが受賞されました。

この度69号の発行運びとなりましたので、ここに紹介いたします。

入間市民生委員・児童委員協議会大山副会長 藍綬褒章を受章



入間市民生委員・児童委員協議会副会長の大山久子さんが令和二年春の褒章で藍綬褒章を受章されました。

藍綬褒章は公共の利益に貢献された人

に贈られるもので埼玉県では九人の方が受賞しました。心よりお祝い申し上げます。

大山副会長は平成元年12月から約30年間にわたって、入間市民生委員・児童委員（以下、民生児童委員と略）として地域社会の福祉向上に尽力されてきました。

《大山副会長に伺いました》

「民生委員・児童委員を長期間にわたって続けることができたのは夫や家族、周囲の支えと、みんなが応援してくれたからこそと思っています。」

活動の心構えは行政や関係機関とのパイプ役として子育てや介護の悩みを抱える方、障がいのある方、高齢者の方等の身近な相談相手となること。それには、何年も顔を合わせることで信頼してもらい、悩みを打ち明けやすい関係をつくるのが大切なことだと思いついてきました。また、委員同士が顔を合わせる定例会では、ほっとするような雰囲気をつくり、どんな小さな悩みでも、みんなに分け合い、帰るときには心が軽くなるようにしたいと心掛けています。大変な役目ですが、私自身も会う人みんなから元気をもらい、生活していく上での励み、生きがいになっています」

とお話いただきました。



令和3年度埼玉県社会福祉大会

埼玉県知事表彰

山本正次
粕谷喜朗

会長表彰

森田祥子
福田博子

令和3年度全国民生委員・児童委員大会

民生委員・児童委員功労者表彰

亀谷容子

永年勤続民生委員・児童委員表彰

築田なをみ 三浦佳美
鹿倉孝 山下恵久子
野口泰子 水村安代
林純子 須田邦夫
黒田毅 浅見慎一
岡田千代子 高倉仁一
岡村眞里子 矢口幸子
山内修一 晝間秀子
竹野谷久江 久保浄子
鈴木豊 木下カズエ
秋山京子 滝沢歓吾
平岡芳太郎 石田憲治

令和3年度入間市福祉大会

入間市社会福祉協議会表彰

成田 實
中島 栄

(敬称略)

令和2年度全国社会福祉大会

全国社会福祉協議会会長表彰

荒井正武

令和2年度埼玉県福祉大会

埼玉県社会福祉大会会長表彰

西崎智
深澤正博

令和2年度全国民生委員・児童委員大会

永年勤続民生委員・児童委員表彰

深澤正博
福田博子
森田祥子

令和2年度埼玉県民生委員・児童委員大会

民生委員及び児童委員知事功労章

米山みどり

永年勤続単位民生委員・児童委員協議会会長表彰

大山久子
比留間ふじ
築地芳枝



令和2年度入間市社会福祉大会

入間市社会福祉協議会表彰

- 薬田なをみ 三浦佳美
- 鹿倉孝 山下恵久子
- 野口泰子 水村安代
- 林純子 須田邦夫
- 黒田毅 浅見慎一
- 岡田千代子 高倉仁一
- 岡村真里子 矢口幸子
- 山内修一 晝間秀子
- 竹野谷久江 久保浄子
- 及川章 鈴木豊
- 木下カズエ 秋山京子
- 滝沢歎吾 平岡芳太郎
- 石田憲治 (敬称略)

民生委員・児童委員の一斉改選

民生委員・児童委員（以下、民生児童委員と略）は民生委員法により、その任期は3年と定められており、現委員は令和元年12月から活動を始めました。この間、コロナ禍の影響もあり従来通りの活動が出来ない3年間でしたが、早いもので、今年12月1日付けで一斉改選となります。

令和元年度の改選では61人（約三分の一）が交代しました。前回の改選では50歳代の委員の割合が10%に対し70歳代が50%であり、

民生児童委員になる年齢が上昇し、委員を長く続けることができず、委員が現状です。また、全国的に「民生児童委員のなり手不足」が課題にあります。

現在、当市における民生児童委員の新たな候補者は自治会の推薦と民生児童委員自身で探していますが、候補者を見つけないことに苦労しているのが実情です。

今後、市行政等への協力依頼や、その体制作りが待たれます。

今回、一斉改選にあたり経験豊かな豊岡第一地区の亀谷容子委員に民生児童委員活動についてのご意見を伺いました。

「長く民生・児童委員に携わってこられたのは先輩に恵まれていた事です。主任児童委員時代は大山先輩がレールを敷いてくれた事、その後は中敷領先輩が民生委員の活動に今も力を貸してくれている事です。

子育て広場『あいくる』を設立した時は民生委員の皆さんに絵本購入など運営を助けていただきました。その後、保育園の仕事を続けながら民生委員のお仕事をお受けしました。

令和4年2月、ひとり暮らしの高齢者の方が亡くなりました。ひとり暮らしを恐れず嫌がらず楽しめるたしなみを持った人でした。周囲が何を言おうが自分の生き方を貫き通した人だったと思います。

いま、私は普段の生活の中に「楽しい」「面白い」「素敵だ」と思う事を見つけて感動する事、そして今まで生きてこられた事を支えてくれた人達に感謝する事に心がけねばと気づかされています。

ひとりの高齢者の死に幸せな生き方を学びました。民生委員の仕事は自分の生き方をふりかえるチャンスをもたらす事だと思っています。」

編集後記

令和2年1月頃より、新型コロナウイルス感染症拡大が報告されて以来、緊急事態宣言が実施され、行動が制限されてきました。

広報部会も取材活動の制限や会場所の閉鎖があり、民児協だより（本紙）の編集作業が停滞してしまい、昨年12月1日の発行はできませんでした。

今年の3月21日に蔓延防止措置が解除され、現在の手持ち資料を利用し、2ページ版で発行できないかとの提案があり、3月の本部定例会議の承認のもとに、6月1日の発行で作業を進めることになりました。

早く、新型コロナウイルスの影響がない活動や生活が戻ることを祈念して、行動したいと思っています。